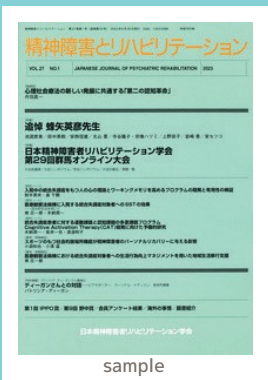


## 学会誌 「精神障害とリハビリテーション」

「精神障害とリハビリテーション」は日本精神障害者リハビリテーション学会の学会誌として1997年より年に2回、6月(1号)と11月(2号)に発行しています。会員の方は発行後に郵送されます。会員以外の方は金剛出版等で購入いただけます。また、メディカルオンライン等にも掲載しています。



### 入会について

入会をご希望の方は、学会会則をご覧の上で学会ホームページの入会申込書にご記入いただき、下記メールアドレスに添付もしくはFAXにて、本学会事務局までお申し込みください。お申し込みの際に、身近に推薦者がいらっしゃらない場合は、事務局にご相談ください。

年会費  
正会員8,000円、賛助会員10,000円

学会ホームページはこちらから  
<https://japr.jp/>



## ともに創る、ともに暮らす



日本精神障害者リハビリテーション学会

Japanese Association of Psychiatric Rehabilitation



### 学会事務局

住所：〒115-8650 東京都北区赤羽台一丁目7番11号  
東洋大学福祉社会デザイン学部  
WELLB HUB-220901研究室（吉田研究室）  
FAX：03-5924-2335  
E-mail: [japr.jimukyoku@gmail.com](mailto:japr.jimukyoku@gmail.com)

### 年次大会

過去の年次大会の情報ははこちらから→



直近の年次大会のHPIはこちらから→



## 本学会について

日本精神障害者リハビリテーション学会のリーフレットをご覧頂きありがとうございます。

当学会は、精神障害のリハビリテーションについて専門的に研究しかつその実践の向上を図ることを目的に創設された我が国では唯一の職種横断的な団体です。平成5年に創設され、精神科医、ソーシャルワーカー、心理職、看護師、作業療法士などに加え、当事者やその家族の会員からなる広く開かれた団体です。

## 本学会の目的と事業について

本会は、精神障害者リハビリテーションの向上と会員相互の学術研究を目的として、次の事業を行う。

1. 会員の実践及び研究活動の成果を発表する研究大会の開催。
2. 技術や情報を普及させるための研修会の開催。
3. 精神障害者リハビリテーションに関する研究及び情報交換。
4. 学会誌等、印刷物の刊行。
5. その他、本会の目的を達成するために必要な事業。(会則2条より)

## 会長挨拶 日本精神障害者リハビリテーション学会 会長 内野俊郎

2024年度より学会長を務めることとなりました、内野俊郎です。この重責をお引き受けするにあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

本学会は、1981年の設立以来、精神科病院の中で行われる医学モデル主体のリハビリテーションから、新たな生物学的・心理学的・社会的モデルに焦点をあてて様々な試みをしてきました。学会の運営の中心を果たしてこられた歴代の会長は、いずれも当時の学会を代表するに相応しい実績と知見と備えておられ、学会や社会への貢献のあった方ばかりです。先代会長の池淵恵美先生は、そのご挨拶の中で自らを第2世代と呼んでおられます。創生期に中心を担われた先生方の次世代として日本の精神障害者リハビリテーションを大きく発展させた方々ですが、その先生達も第3世代にバトンタッチをされる時期を迎え、池淵先生は会長としてのお役目のひとつとして次の世代へのバトンタッチを挙げておられました。

私は、池淵先生や、第6代会長の伊藤順一郎先生、現在も理事をお務めいただいている安西信雄先生、後藤雅博先生という第2世代の先生たちの足跡をなんとか歩んできた、まさに第3世代にあたります。個人的には、この第3世代は精神科医の層が薄いことが課題であったと思っています。第3世代の中でもとりわけ足取りが危なっかしい私が会長の重責を担うことになったのも、その課題の表れであるように思えます。一方で第3世代には、医師以外の立場から本学会で活躍してきた人材が、第2世代に負けずに育っておられます。精神障害者リハビリテーションの現場を担っている人たちが、研究に取り組んでいる人たちの実際的な構成を考えると、それはとても自然なことと言えるでしょう。さらに第4世代と呼ぶべき若い世代の人たちも理事、さらに各委員会の委員として参加されるようになってきており、その活躍の場や職種は多様性が広がっています。

本学会は何かしらの専門職集団を代表する職能団体ではありません。様々な立場から、日本の精神障害者リハビリテーション、精神障害を持つ人たちの充実した人生の獲得を目指す集まりです。そういった意味からは、理事会に当事者としてのアイデンティティを持つ方が加わってくださったことも大きな転機になるように感じており、今後益々当事者、家族との協同が進むことが期待されます。歴代の会長と比べますと、私は研究、実践、教育のいずれの面から、また識見や人望について遠く及ぶべくもなく、旗を振って先頭を走るような力量はありませんが、今後の世代を代表する理事や会員の皆様と話し合いながら学会の行く末や、精神障害者リハビリテーションのこれからを考えていくというのが役割であると思っています。臨床現場の声をきちんと学会活動に反映させ、当事者と実践家、研究者が一体となった取り組みを一步でも前に進めていくため、みなさまと手を携えていけることを願います。

(2024年5月)

## 各種活動

### 野中賞

野中猛元会長の精神障害者リハビリテーションの発展と本学会への多大な貢献を歴史に刻み、この領域における研究の発展を促し、学術的なレベルの向上を図るため、2014年度から野中賞選考を実施しています。

### IPPO賞

国内の精神科リハビリテーション機関や地域支援機関・団体を表彰するIPPO賞(Interactive Personcentered Practice and Organization賞)を設けています。この賞名には、①当事者と支援者が協働して、当事者中心の実践に取り組む機関・団体を表彰したいという思いと、②現状を変える「一歩」を踏み出すようなチャレンジをしている機関・団体を表彰したいという2つの意味が込められています。本賞はベストプラクティス賞の後継として2022年度から新設され、様々な機関・団体が申請可能な賞となっています。

### 研修について

研修委員会が中心となり学会主催の研修を企画しています。研修セミナーは年次大会に合わせて実施されています。そのほかの研修企画もこれから検討していきます。

